

皆さま、講師研究会でお世話になりました舘野です。講師研修会にご参加いただきありがとうございました。研修会で学んだ内容を、ぜひみなさまの講習の中で活かしていただきたいと思います、これから6回にわたって、研修内容を思い出すような「問いかけ」を行います。

この「問いかけ」をもとに、テキストを復習していただき、研修に活かしていただければと思います。

【6つの問いかけ】

1. 「研修」の定義を覚えていますか？
 2. 「とりあえず新しい方法を取り入れればよい」という状態になっていませんか？
 3. 「最初の7分間」に集中していますか？
 4. 「参加者の状態」を把握しようとしていますか？
 5. 「グループワーク」を効果的にするための工夫をしていますか？
 6. 「振り返り」を効果的にする工夫をしていますか？
-

4. 「参加者の状態」を把握しようとしていますか？

研修の参加者が「一様」であることはほとんどありませんよね。年齢や立場、現場の経験など、参加者は常に多様です。参加者の中のどこにあわせればよいかはかなり迷いますよね。

こうしたときに大切なのは「どんな参加者がいるのか」をなるべく早い段階で把握することです。名簿の入手や、事前アンケートが実施できる場合にはそれらを早めにやるのが大切になってきます。

もし事前にアンケートなどが実施できなくても、「当日の自己紹介」などを上手につかうことでその状態を把握することができます。

例えば、講師研修会では自己紹介の立て札を使いました。その欄に「普段やっている仕事」や「仕事の経験」、「何を知りたいと思っているか」などを記入させておけば、講師もそれをざっと見ることで「今回の参加者の属性」を知ることができます。

特に差し支えのないような情報であれば、全体に対して「〇〇の経験をしている人はいますか？」などの問いかけをして、挙手をしてもらってもよいでしょう。そのようにして、学習者の状況を常に把握することがとても大切です。

参加者の状態を把握しておく、グループ分けをするときにも有効です。現場の経験がないと解けない問題などの場合には、全てのグループに少なくとも一人はそうした経験がある人を割り振るなどといった工夫が可能となります。

自分が用意した教材が効果的に働くかどうかは、「参加者がどのような状態か」にも大きく影響を受けます。参加者の状態を常に把握する工夫を取り入れていきましょう。